

令和5年度 3学年探究発表会 振り返り

教育研究部  
2023年8月29日

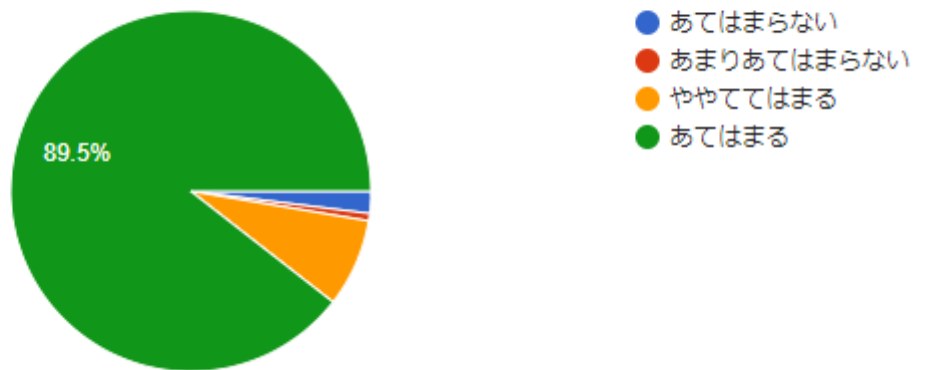
実施日：7月24日（月）  
場所：美鈴が丘高校 講堂

I 【生徒振り返り】

①特に肯定的な回答が目立った項目

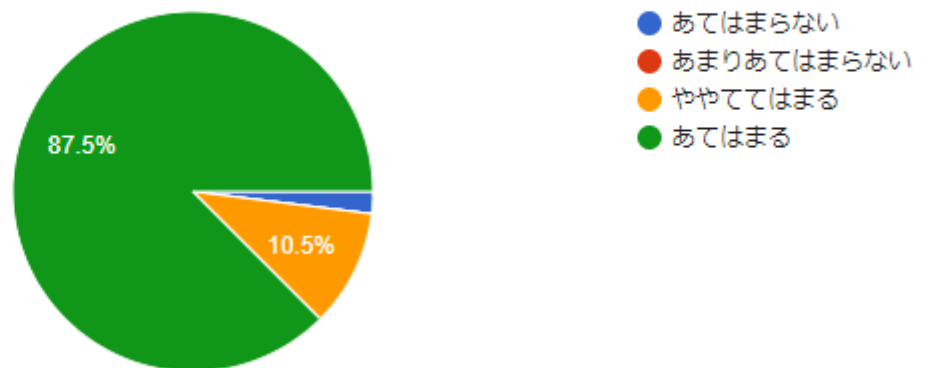
質問1 発表者たちは、収集した情報を分析し、論理的に結論を導いていた。

152件の回答



質問2 発表者たちは、分析した結果を研究目的に結び付けて考察していた。

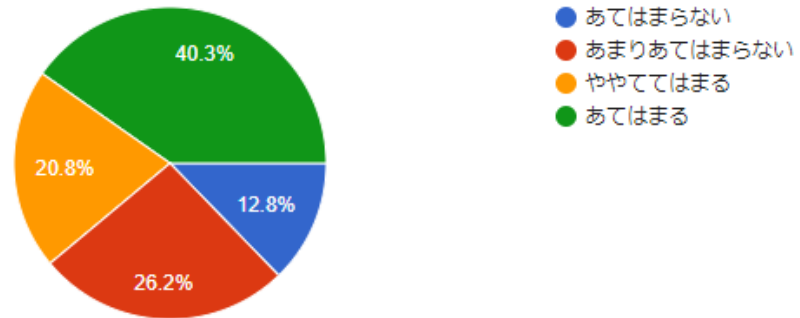
152件の回答



②特に否定的な回答が目立った項目

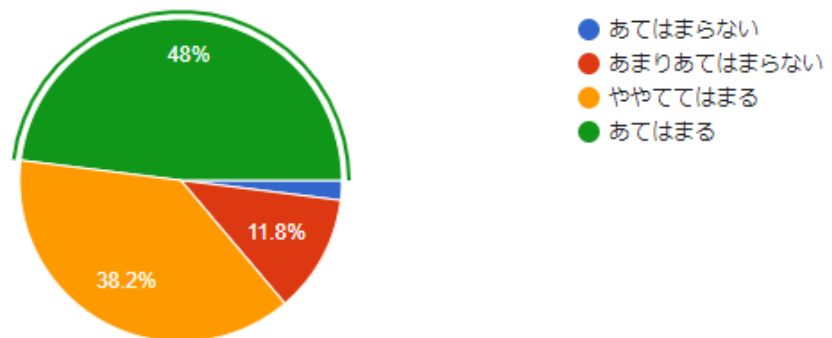
質問 9 自分が他者の発表を聞く際には、自身の発表と比べながら聞いた。

149 件の回答



質問 1 2 自分が他者の発表を聞く際には、自身に生かせる点を分析していた。

152 件の回答

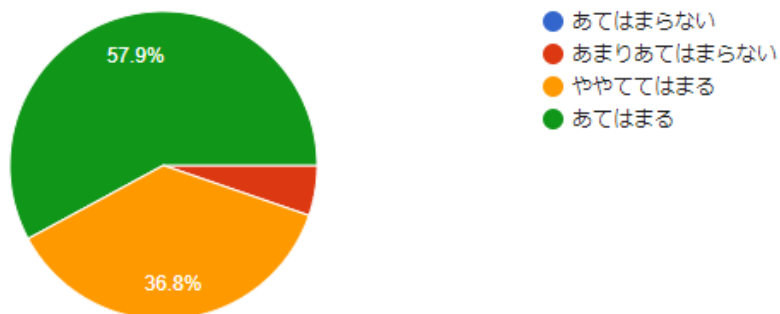


## Ⅱ【教員振り返り】

### ①特に肯定的な回答が目立った項目

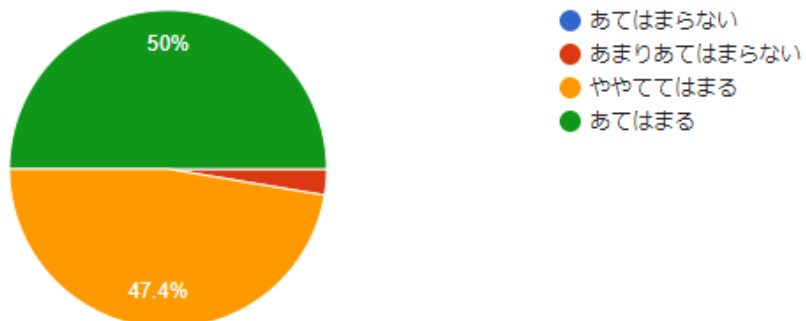
質問5 発表者たちは、論理展開や主張等がわかりやすくなるようにスライドや発表資料等を工夫して見せていた。

38件の回答



質問6 発表者たちは、発表の際に要点を整理して話そうとしていた。

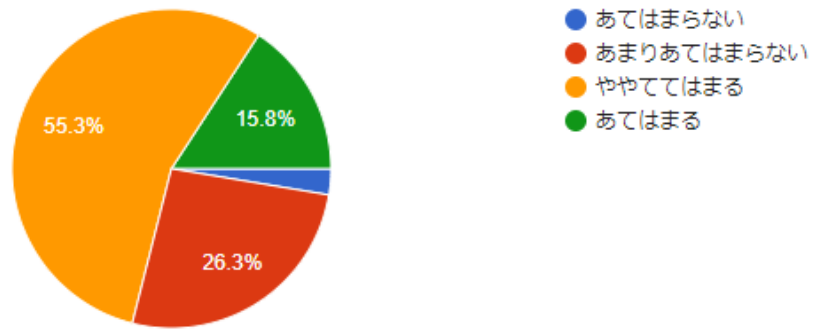
38件の回答



## ②特に否定的な回答が目立った項目

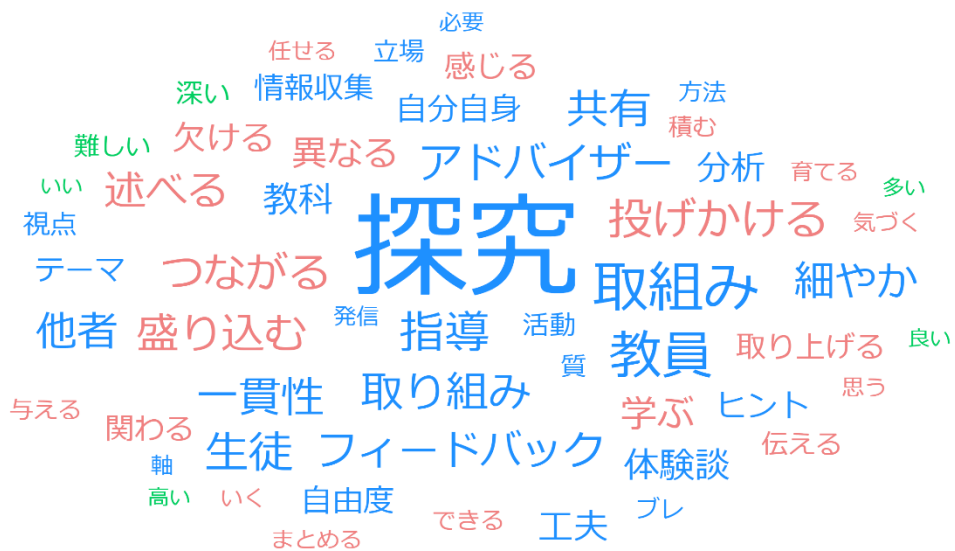
質問3 発表者たちは、導いた結論から次の研究につながる新たな課題を見出していた。

38件の回答



## ③質問7に対する回答

質問7 総合的な探究の時間における生徒の探究活動をより質の高いものとするために、教員一人一人が今後どのように指導していく必要があるとお考えでしょうか。(25件)



(AI テキストマイニングによるワードクラウド)

### 【フォームで収集した自由意見】

- ①情報収集の方法や、情報の分析、まとめ方を指導する。
- ②一貫性や、テーマ軸からブレていないかを指導
- ③先生が地域に入る取組みが必要
- ④細やかなフィードバックが必要かと思います。
- ⑤自由度が高いものだと考えるので、自らの体験談などを盛り込むと良い
- ⑥教員があまり口を出さずアドバイザー的立場で関わる
- ⑦生徒とともに生徒の「知りたいを」を探究していく方法を学んでいくこと
- ⑧生徒の考察を発信することがゴールになれば、各教科における指導もさらに意味の深いものになるかと思います。全教員がそのことを意識しながら、学校全体で教科横断的な指導ができればいいなと思います。
- ⑨やはり経験を積むことが大事。
- ⑩生徒の知識量や理解度をよく分析し、彼らが少し頑張れば到達できるレベルの取組みを検討する。実際、消化不良的な取組みが見られるので。
- ⑪1人に任せきりのグループがあったので、他者と協働する力を育てる。
- ⑫解説者の方が、取り上げた理由を述べてないことを指摘されていましたが、基本的に研究理由が課題に繋がっていると思います。実践部分が足りていないと思いました。
- ⑬実際生徒の案を見ると、異なった立場の視点が欠けているものが多かった。一つ一つにツッコミを入れるのとヒントになることを投げかけるのは大変だと思いました。
- ⑭正解やヒントを与えすぎないこと。しかし、何もない状態から深めていくことは難しいので、絶妙なバランスを見極めながら助言する必要がある。
- ⑮探究の授業に関わってみて、出来るだけ少人数に対して1人の教員がつかなければ質の高い探究活動とその指導は難しいと感じている。システムや時間割、教員の指導の仕方を工夫しなければならないと感じています。
- ⑯教員はあまり口出しせず、サポートに徹する。失敗してもそれを学びにつなげるようサポートする。
- ⑰発表会が設定されることで結論を急ぐことにつながると深い探究につながらないと感じている
- ⑱生徒との対話を重視する。生徒同士でも相互評価できるように、展開を工夫したり、評価基準を作り共有したりする。
- ⑲各自の専門性をもとに多様な視点から思考すべきことに気づかせるカリキュラムマネジメントを考えるために共有できる場を設けた方が良い
- ⑳「質の高い探究活動」の具体的な事例がまだはっきりと掴めていない状況では、自分自身、生徒へ支援や援助を行うことは難しいと感じます。時間を要するためあまり現実的なアイデアではありませんが、個人的には教員が自分自身で何かテーマを見つけて、実際に探究活動をしてみる機会があれば良いと感じます。

②1 5 w 1 h を活用し、問題を作成しグループや他者と共有しながら優先順位を決めて、探求活動がスタートできるように働きかける。

②2 教員一人一人が生徒のテーマに対して専門的にアドバイスする力が必要。探究内容の発表に向けてのまとめ方の指導力。個別に対応する時間確保がどれだけできるかで指導方法は変わる。

②3 指導内容、方針の共有

②4 自分の実際の体験から、探究することの楽しさを伝える。自分が将来やりたい事に気づくきっかけにもなると伝え、指導していく。

②5 教員の資質向上、意識改革

### Ⅲ 成果と課題

#### 【成果】

#### ① アンケートより分析

(生徒)

・ 探究発表としてある程度レベルの高い発表を知ることができた。

(教員)

・ スライドや発表の工夫については肯定的な意見が多かった。

→ オーディエンスを引き付ける発表の工夫ができている

・ 要点を整理して話そうとしていた、という項目については肯定的な意見が多かった。

→ 限られた時間の中で、探究内容を伝え切ろうとしている。

・ 発表会を見た教員から様々なフィードバックを得られた。

→ 生徒の探究の現状を見て現状を共有でき、今後の発展につながる意見をもらえた。

#### ② 発表会担当者としての分析

◎ 数百人単位である程度の熱意を持って堂々と発表できる生徒がいる

◎ 実際に FW に行った経験と分析を盛り込む生徒がいる

◎ 聴衆を巻き込む生徒がいる

◎ 地域の問題に目をつける生徒がいる

## 【課題】

### ① アンケートより分析

(生徒)

- ・探究発表を見て、自分ごととして比較したり、学ぼうとする姿勢があまりなかった。
- 同じスタイルの地域探究を1, 2年生はしていないので比較しにくいかもしれない。

(教員)

- ・導いた結論から、次につながる課題を見出していた、という項目については否定的な意見が多かった。
- 3年7月の段階で探究を完了する、という意識が強いためか、次につながる課題についてはほぼ言及がなかった。

### ② 発表会担当者としての分析

- ▲問題意識の発端と分析が主観的すぎる
- ▲情報源がまとめサイトレベルのものも散見される
- ▲先行研究等を参考にした形跡がない
- ▲実際にインタビューをしたり、FWに行った生徒は少ないのではないか(机上の空論)
- ▲次への課題について述べられていない(探究自体は今後も続けていくべき)
- ▲実験手法、インタビュー手法、アンケートの分析手法が適切でない

#### IV 【次回探究発表会に向けたアクションプラン】

##### ① 確かな情報リソースに生徒をつないでいく

→ 確かな情報リソースを得られる web ページ等の紹介

<https://drive.google.com/file/d/1tvx9mG0Ayn7ib1s.jGWMChBDP-GCgwPqq/view?usp=sharing>

##### ② 必要なとき(知りたいと思ったとき)に先行探究が見られる仕掛け【探究アーカイブ含む】

→ 現状自分事化はできていないが、地域探究が進むにつれどこかで先行探究等の情報が必要なタイミングくるはず・・・その時に、先輩たちの先行探究にアクセスできる仕組みづくりをする。

→ ポンチ絵を活用してロードマップを各学年の廊下に掲示して、3年間の流れと現在地の把握及びQRコードによるデータへのアクセスを可能にする。

<https://drive.google.com/file/d/1CpP90tRodrq3oY0bgYGHwpsta2fAgWHf/view?usp=sharing>

##### ③ 生徒が地域に飛び出すことができる機会の創出

・ 現状で活用できそうなネットワーク

→ 美鈴が丘公民館との連携 → 美鈴が丘小学校、中学校との連携 → 佐伯区役所との連携

→ 美鈴が丘モールとの連携 → 地域の企業との連携 △

= 週1回の午後からの探究+LHRの時間を活用して外に出ることができる機会を作る

・ 連携における懸念点

▲ 地域連携のコーディネートをどうするか(担当教員の多忙化につながる可能性有)

▲ 本校の授業時間帯と連携先の活動時間帯が一致するとは限らない

▲ 美鈴が丘団地周辺は保育、教育、介護、などの分野とは相性がよいが、それ以外の探究分野の生徒にとって行き先はあるのか→ 様々な分野の集合体である市役所(区役所)とも上手く連携することで対応可能な分野が増える

##### ④ 探究における必須要素をそれぞれのプロジェクトに落とし込む

・ 発表のフォーマットに【次につながる課題】を必ず入れるようにする

・ 情報源として、web+ (論文 or インタビュー) を必須とするなど、現状よりも一歩深い情報をとれるようにする。